

愛隣幼稚園.....



園だより

.....16. 10月号

大人も生き生きと

私の住んでいるマンションに、子どもたちが小学生の時にお世話になった養護教諭の先生が住んでいます。その先生と立ち話になりました。私が幼稚園に勤めていることはご存知でしたが、それがどこにあるかということをご存知ではありませんでした。「教育センターの前の幼稚園なの。」「あ、なんかこの前“おまつり”やってた?」「あ、9月の初め?」「ちがうちがう。お母さんたちがバザーみたいなことやってた。」「あ、それね。幼稚園のお母さんが発起人になって、チャリティフリーマーケットをやってくれたの。」「そうなんだ。帰りの時間みたいだったから何してるのかなあとと思って上から見てたら楽しそうだった。」お隣からたまたま見た幼稚園の光景が“おまつりのよう”に賑やかで楽しそうだったという事でした。じつは同じようなことをよく言われるのです。それは、朝、門で「おはよう!」をしている時に起こります。「今日はこれから何かあるんですか?」「・・・?。いえ、今日はいつもと変わりませんが。」「そうですか。なんだかお母さんたちがいっぱいとても楽しそうなので、これから何かあるのかと思いました。」年に何回かこんな声を掛けられます。子どもたちが賑やかで楽しそうなのは幼稚園ですから当然で、むしろそうでなかったら気になります。でも、愛隣幼稚園は大人たちも楽しそうで、それが通りすがりの人には気になることになるようです。そう、「大人たちも楽しい」それはわたしの愛隣自慢のひとつです。チャリティフリーマーケットはそもそも不用品を処分したいと思ったお母さんが、それなら幼稚園でフリーマーケットをしようかなと思い立って企画してくれました。「やりたい人が負担なくちょこっとできて、みんなが楽しい時間になって、不用品の処分もできて、幼稚園に寄付もできる! そんな感じでやりたいんですけどいいですか?」幼稚園がやってほしいと頼んだわけではなく、お母さんが言いたしっぺです。そして「大人たちも楽しい」時間ができました。また先日は、双葉学園のことをもっと知りたいのでその機会を作りたいと、別のお母さんが企画を持ち込んでくれました。「幼稚園にいる間は、双葉の子もみんな仲間っていうことをなんとなく共有できているけれど、小学校に行ったらみんなが双葉学園のことを共有している訳じゃないから、もっとちゃんといろいろなことを知っておきたいと思って。」という申し出でした。嬉しいお話で、今年度中に実現する予定です。地域の中に繋がっていく子どもたちを支える力になります。

愛隣幼稚園の保育は「子どもが主人公」を合言葉にしています。そして同時に子どもも大人も生き生きと、ということをお願いしています。幼稚園時代を子どもたちが主人公になって主体的に生き生きと過ごす為には、大人たちも同じように主体的に生き生きと仲間や子どもたちとの時間を過ごすことが大切だと思っています。子どもたちの生活を支えているのは大人たちだからです。子どもたちに主体的であれと願うのであれば、私たちも主体的でなければおかしい話です。子どもたちとこの時をどうやって生き生きと私らしく生きていくのか、楽しんでいくのか、そんなことを考えた時に先にご紹介したような言いたしっぺが現れてくださるのでしょうか。〈ぼてとクラブ〉も〈絵本の会〉も〈おやじの会〉もそんなことを考えた先達が言いたしっぺになって始めてくださって、愛隣に関わる人たちが今日まで繋げてくださいました。“大人も生き生きと”がここにもあります。

こんなことを書いてみると、これを読んでいるお家の方の中には、「私にはそれは無理だな。主体的とか生き生きとか。いま、こうしているだけでも精一杯。」そう呟いている方もいることでしょう。私も『一億総活躍社会を目指して!』なんて言われると「えー、みんながそれは無理。」と思ってしまいます。私たちが、いつ、どこで、どんなふう（誰のために）、活躍する（生き生きと生きる）かは、誰かに強いられてすることではないと考えています。エネルギーがない時には、エネルギーを持っている仲間からいただく恩恵に喜んで与えることにしましょう。今はそれでいいのです。気付けばあなたも生き生きと今を生きているかもしれません。そう、愛隣だけが生き生きと生きる場所ではありませんから。